

戦争体験継承DVDを 作成しました

タイトル

未来に語り継ぐ
平和へのメッセージ

事業概要

背景 新宿区では「新宿区平和都市宣言」に基づく様々な平和啓発推進施策に取り組んでおり、戦争体験の次世代への継承をその柱の1つとしています。

しかし、終戦から70年を超える現在、戦争体験者は年々減少しており、戦争体験の継承が喫緊の課題となっています。

目的 戦争体験者の貴重な証言を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さについて改めて実感していただき、1人ひとりが平和に対する意識を高めるとともに、将来に渡る貴重な記録として残し、戦争の記憶を未来へ伝承していくことを目的としています。

活用方法 新宿区立小・中学校の平和教育での教材としての活用や、区立図書館等での貸出、区公式ホームページでの映像発信、本庁舎1階デジタルサイネージや特別出張所での放映、新宿歴史博物館の講座などでの活用。

このDVDの視聴によって、学校や地域、ご家庭などで平和について考えていただくきっかけにしたいと考えています。

内容構成

- 1 オープニング
- 2 新宿区の戦争被害概要
- 3 区民の戦争体験
 - ・佐久間 國三郎さん（北新宿在住）
 - ・小林 八郎さん（富久町在住）
- 4 被爆者の戦争体験
 - ・石原 智子さん（広島市在住）
 - ・田川 博康さん（長崎市在住）
- 5 エンディング



ナビゲーター 草野 仁

区民の戦争体験

新宿区は、昭和17年4月の初空襲以降、度々被害を受け、特に昭和20年4月、5月の空襲では官公署・駅・工場・デパート等を含め10万個以上の建物が消失し、終戦時には区内の約8割が消失しました。当時、戦争を体験されたお二人の区民の方にお話を伺いました。

- ◆佐久間 國三郎さん…B29から焼夷弾が降り注ぐ中、家族で命からがら逃げ延びた体験
- ◆小林 八郎さん…東京大空襲の記憶や、小学5年生で学童疎開し空腹や寂しさに耐えた体験

さくま くにさぶろう
佐久間 國三郎さん
プロフィール
北新宿三丁目在住 終戦時16歳
平和のために、次世代へ戦争体験を語り継いでいくことが戦争体験者の使命と考え、新宿区における「平和の語り部」として登録。区の平和啓発事業や小学校での平和授業など、様々な機会を通じて、戦争の恐ろしさや平和の尊さを伝え続けてくださっています。

こばやし はちろう
小林 八郎さん
プロフィール
富久町在住 終戦時12歳
戦争体験を語ることで、次世代に平和の大切さを継承したいとの思いから、「新宿区平和都市宣言30周年記念誌」への戦争体験談の寄稿や、本DVDの作成などに協力。未来に向かい、未永く平和が続いていくことを願われています。

被爆者の戦争体験

平和啓発事業の1つ「親と子の平和派遣」では、区民親子が長崎・広島を訪れて被爆体験を聞く機会を設けています。今年度の平和派遣でお話を聞いた、お二人の映像を収めました。

- ◆石原 智子さん（広島で胎内被爆）…両親が見た原爆の悲惨さと被爆者の置かれた状況について
- ◆田川 博康さん（長崎で被爆）…一生のトラウマとなった原爆による惨状と両親の死亡について

広島被爆者援護会 平和学習講師
いしはら ちえこ
石原 智子さん
プロフィール
広島に原爆が投下された時、母親の胎内で被爆。現在は、語り部として、全国の小中学校をまわり、ヒロシマの声を伝えるとともに、命の大切さ、人としてのやさしさや思いやりを説いています。

公益財団法人 長崎平和推進協会 会員
たがわ ひろやす
田川 博康さん
プロフィール
長崎に原爆が投下された時は12歳。爆心地から3.3kmにある疎開先の鳴滝町で被爆しました。現在は、ご自身の被爆体験を語り継ぐ活動を展開しています。